0

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

Global Partner/Net VA

グローバルパートナー/Net VA

＊Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

四半期運用レポート

2014年7月～2014年9月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン*／アライアンス・バーンスタイン株式会社

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタイン*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

＊金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート （2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2014年7月～2014年9月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX（東証株価指数）が前期末比＋5．05%上昇の1，326．29ポイントで終了しました。
7月は、ポルトガルでの信用不安への懸念などから下落する局面もありましたが、中旬から月末にかけては、四半期企業決算への期待や円安基調などを好感して上昇基調で推移しました。8月は、地政学リスクの高まりを受けて円高米ドル安の動きとなったことなどから下落した後、地政学リスクが後退したことや米国の堅調な経済統計などを背景に上昇しました。9月は、円安や日銀の追加金融緩和期待などを受けて上昇基調で推移しました。
業種別（東証33業種）では、円安進行を受けて「電気機器」（前期末比＋11．11%）が最も上昇した一方、業績懸念から「その他金融業」（同△7．23%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、7月、6月の雇用統計の大幅な改善の一方、ポルトガルでの信用不安などから中旬にかけて揉み合いながら推移した後、8月上旬にかけて、地政学リスクの高まりなどから大幅に下落しました。8月下旬にかけては、堅調な経済統計などを背景に大幅な上昇に転じました。9月は、早期利上げ観測の高まりなどから小幅な下落が続いた後、早期利上げへの警戒感の後退などから上昇に転じましたが、月末にかけては、中国や欧州の景気減速懸念などを背景に下落基調で推移しました。期を通して見ると、NYダウは、前期末比＋1．29%上昇の17，042．90ドルで終了しました。
欧州株式市場は、7月、ポルトガルでの信用不安や、ウクライナや中東における地政学リスクなどにより、揉み合いながら下落しました。8月は、低調な景気指標などを受けて大幅に下落した後、中旬から下旬にかけて、追加金融緩和観測が高まったことなどから大幅な上昇に転じました。9月は、ECB(欧州中央銀行)による追加金融緩和決定やユーロ圏の景気指数の悪化などにより揉み合いで推移しました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比△1．80%下落、仏CAC40は同△0．15%下落、独DAXは同△3．65%下落となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、7月、国内株式市場の下落や欧米長期金利の低下などを受けて、金利は低下(価格は上昇)基調で推移しました。8月は、株高・円安などを受けて一時上昇（価格は下落）する局面もありましたが、地政学リスクの高まりなどを背景に低下しました。9月は、円安基調や国内株式市場の上昇などを受けて大幅に上昇した後、国債需給の逼迫が意識されたことなどから、低下基調で推移しました。新発10年国債利回りは0．525%となりました（前期末は0．565%）。
日銀はマネタリーベースが年間約60～70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

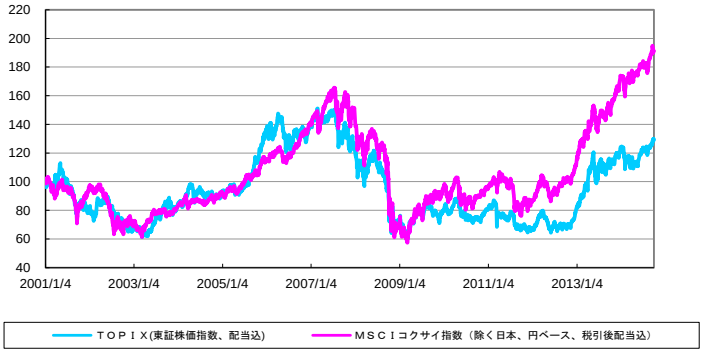
米国債券市場は、7月、雇用統計の大幅な改善などを受けて金利は上昇(価格は下落)して始まりましたが、8月下旬にかけて、利上げ警戒感の後退や地政学リスクの高まりなどから低下（価格は上昇）基調で推移しました。9月は、高値警戒感から売りが先行したほか、早期利上げ観測の高まりなどを背景に大幅に上昇した後、欧州の国債利回りの低下や米国株式市場の下落などを受けて低下基調で推移し、米10年国債利回りは2．489%となりました（前期末は2．530%）。
欧州債券市場は、7月から8月下旬にかけて、ポルトガルでの信用不安や、ウクライナや中東における地政学リスクの高まり、ECBの追加金融緩和観測の高まりなどを背景に低下（価格は上昇）基調で推移しました。9月は、地政学リスクの一服などを受けて上昇(価格は下落)した後、ドイツの景況指数悪化やECBのさらなる追加金融緩和への期待などから低下しました。独10年国債利回りは0．947%となりました（前期末は1．245%）。
FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．0～0．25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を0．10%引き下げ、年0．05%としました。

【外国為替市場】

米ドル／円相場は、7月から8月下旬にかけて、ポルトガルでの信用不安や地政学リスクの高まりなどから円買いの動きが強まる局面もありましたが、米国の早期利上げ観測の高まりなどから円安基調で推移しました。9月は、米国の金利上昇や、先行きの日米金利差の拡大が意識されたことなどを背景に大幅に円安が進行しました。円は対ドルで前期末比8円9銭円安ドル高の1ドル＝109円45銭となりました（前期末比＋7．98%上昇）。
ユーロ／円相場は、7月、ポルトガルでの信用不安などから円高基調で推移していましたが、月末にかけて、米国の景気回復などの影響により円安の動きとなりました。8月は、ウクライナや中東における地政学リスクや、ECBの追加金融緩和観測の高まりなどにより揉み合いとなりました。9月は、ECBによる追加金融緩和を受けて円高が加速する局面もありましたが、スコットランドの英国残留などを受けて円安が大幅に進行した後は、ECBのさらなる追加金融緩和への期待などから円高基調で推移しました。円は対ユーロで前期末比56銭円安ユーロ高の1ユーロ＝138円87銭となりました（前期末比＋0．40%上昇）。

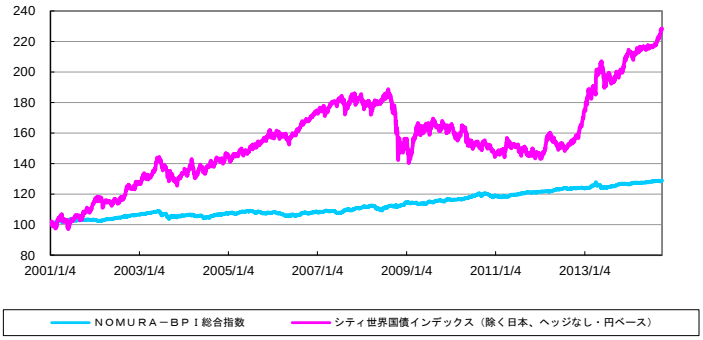
日本と外国の株式市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

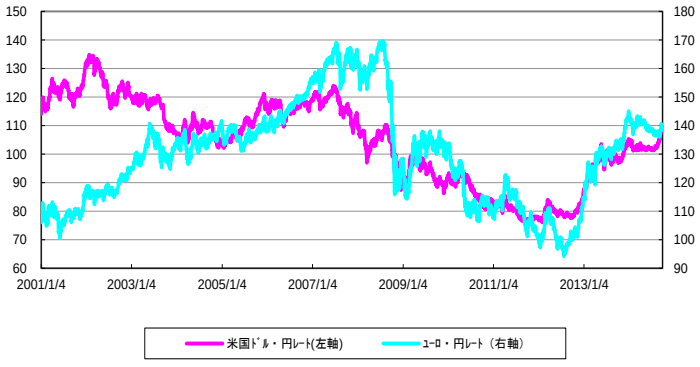


日本と外国の債券市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート （2014年7月～2014年9月）

・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・ 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式 30% 債券 70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション50	株式 50% 債券 50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション70	株式 70% 債券 30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
日本株式	日本株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界株式	世界株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）	アライアンス・バーンスタイン株式会社
世界債券	世界債券 100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
マネープール	短期金融資産 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先： カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

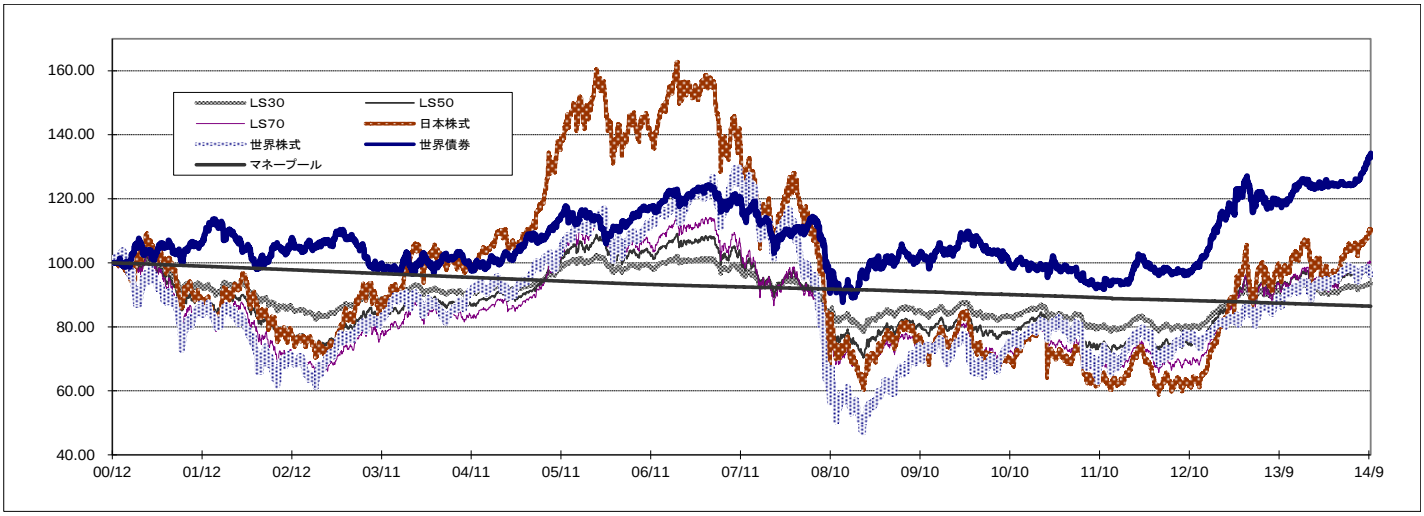
変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート　（2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況　[2014年9月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	93.30	過去1ヵ月	0.91
2014年8月末	92.45	過去3ヵ月	0.91
2014年7月末	92.75	過去6ヵ月	2.13
2014年6月末	92.46	過去1年	2.54
2014年5月末	91.41	過去3年	16.24
2014年4月末	90.66	設定来	▲6.70

ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	98.21	過去1ヵ月	1.70
2014年8月末	96.56	過去3ヵ月	1.90
2014年7月末	97.00	過去6ヵ月	4.36
2014年6月末	96.38	過去1年	5.47
2014年5月末	94.38	過去3年	31.70
2014年4月末	92.96	設定来	▲1.79

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	99.92	過去1ヵ月	2.39
2014年8月末	97.59	過去3ヵ月	2.72
2014年7月末	98.16	過去6ヵ月	6.16
2014年6月末	97.28	過去1年	7.89
2014年5月末	94.54	過去3年	46.21
2014年4月末	92.58	設定来	▲0.07

日本株式			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	109.45	過去1ヵ月	3.59
2014年8月末	105.65	過去3ヵ月	4.98
2014年7月末	106.24	過去6ヵ月	11.45
2014年6月末	104.25	過去1年	12.16
2014年5月末	99.02	過去3年	69.64
2014年4月末	95.56	設定来	9.45

世界株式			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	96.33	過去1ヵ月	▲1.36
2014年8月末	97.66	過去3ヵ月	▲1.77
2014年7月末	97.44	過去6ヵ月	2.79
2014年6月末	98.08	過去1年	9.21
2014年5月末	96.37	過去3年	45.46
2014年4月末	94.89	設定来	▲3.66

世界債券			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	134.23	過去1ヵ月	4.66
2014年8月末	128.26	過去3ヵ月	7.96
2014年7月末	126.16	過去6ヵ月	7.21
2014年6月末	124.33	過去1年	13.24
2014年5月末	124.86	過去3年	44.84
2014年4月末	124.94	設定来	34.23

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

マネープール			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2014年9月末	86.45	過去1ヵ月	▲0.09
2014年8月末	86.52	過去3ヵ月	▲0.29
2014年7月末	86.62	過去6ヵ月	▲0.53
2014年6月末	86.70	過去1年	▲1.09
2014年5月末	86.78	過去3年	▲3.01
2014年4月末	86.84	設定来	▲13.55

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30		ライフ・ソリューション50		ライフ・ソリューション70	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	114,704	4.3	280,760	4.5	156,393	4.0
その他有価証券	2,530,432	95.7	5,901,162	95.5	3,736,831	96.0
合計	2,645,136	100.0	6,181,922	100.0	3,893,224	100.0

項目	日本株式		世界株式		世界債券		マネープール	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	168,806	4.2	109,810	4.6	115,124	4.6	51,935	12.2
その他有価証券	3,886,049	95.8	2,298,082	95.4	2,401,497	95.4	374,597	87.8
合計	4,054,856	100.0	2,407,892	100.0	2,516,622	100.0	426,532	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託並びに外国投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

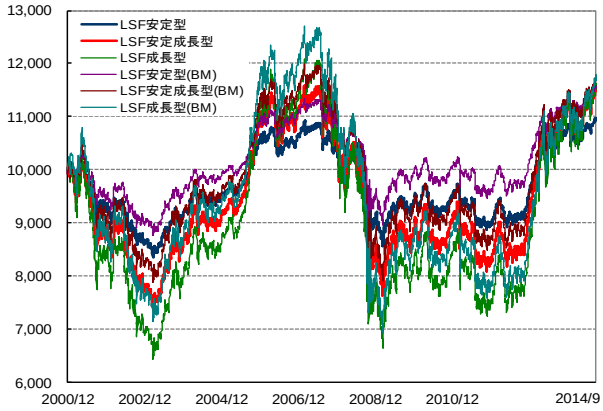
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート （2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション30・50・70　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　LS30 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）〈適格機関投資家私募〉
LS50 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）〈適格機関投資家私募〉
LS70 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉
に投資します。

＊ LS:　特別勘定　ライフ・ソリューション
＊ LSF:　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	1.06%	1.28%	2.88%	3.95%	21.13%	9.42%
BM	0.86%	1.25%	2.82%	3.83%	19.82%	15.32%
差	0.20%	0.03%	0.06%	0.12%	1.32%	▲5.90%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	1.88%	2.30%	5.19%	7.02%	37.59%	14.85%
BM	1.44%	2.05%	4.58%	6.07%	33.44%	16.70%
差	0.44%	0.25%	0.61%	0.95%	4.15%	▲1.85%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	2.60%	3.16%	7.10%	9.57%	53.12%	15.47%
BM	1.96%	2.78%	6.26%	8.25%	47.78%	16.67%
差	0.64%	0.38%	0.83%	1.32%	5.34%	▲1.20%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	LSF安定型	LSF安定成長型	LSF成長型
東証株価指数（TOPIX）*1	24.00%	40.00%	55.00%
S＆P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%	5.00%	7.50%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%	5.00%	7.50%
日興債券パフォーマンス・インデックス（総合*4、中期3年以上7年未満）	30.00%	25.00%	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	40.00%	25.00%	12.50%

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	26.07%
米国株式	3.00%	4.53%
欧州株式	3.00%	4.19%
日本債券	30.00%	33.16%
短期金融資産等	40.00%	32.05%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	43.98%
米国株式	5.00%	7.31%
欧州株式	5.00%	6.44%
日本債券	25.00%	25.98%
短期金融資産等	25.00%	16.28%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	59.90%
米国株式	7.50%	9.89%
欧州株式	7.50%	9.34%
日本債券	17.50%	16.68%
短期金融資産等	12.50%	4.19%
合計	100.00%	100.00%

※ 各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、LSF30（安定型）、LSF50（安定成長型）、LSF70（成長型）それぞれ、前四半期末比＋1．28%、＋2．30%、＋3．16%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、前四半期末比＋1．25%、＋2．05%、＋2．78%となり、ベンチマーク対比＋0．03%、＋0．25%、＋0．38%となりました。
米国では、経済指標が全般的に景気拡大を示し、4～6月期のGDP成長率も上方修正されたことなどを受けて、経済回復が順調であるとの見方から、株式市場は上昇しました。欧州では、鉱工業生産や消費など一部の指標には改善が見られたものの、経済活動全般では軟調で、ウクライナ・ロシア問題など地政学的リスクによって、株式市場は下落しました。日本では、景気回復は消費税後の落込みを取り戻すほどではなかったものの、円安による企業の業績改善の期待や米国株式市場の強さに牽引される形で、株式市場は上昇しました。日本国債利回りは地政学的リスクの高まりや欧州の景気減速による海外債券高に影響されて低下しました。当四半期の投資信託は、資産配分効果、銘柄選択効果ともにベンチマーク対比のパフォーマンスにプラス寄与しました。銘柄選択効果では、日本株式が大きくプラス寄与しました。
委託会社は今後、好調な米国経済や鈍化した欧州経済の回復や、消費税引上げで一時落ち込んだ日本経済の回復が牽引する形で世界経済が回復すると考えていますが、エマージング諸国に関しては成長速度が鈍化する可能性もあるとみています。今後の当投資信託については、ベンチマークに対してマネープールへの配分比率を低位として株式の配分比率を高める戦略を維持する方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

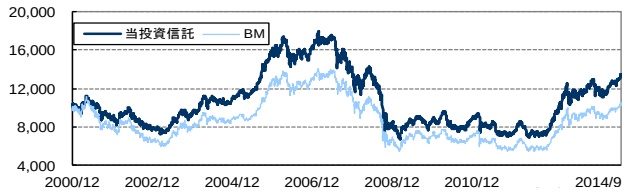
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート （2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　日本株式　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	3.85%	5.55%	12.68%	14.19%	78.99%	32.90%
BM	3.78%	5.05%	10.26%	11.07%	74.24%	2.87%
差	0.07%	0.50%	2.43%	3.11%	4.75%	30.03%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）*1です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	マザーファンド
1	電気機器	12.32%
2	輸送用機器	9.77%
3	化学	7.99%
4	銀行業	7.93%
5	情報・通信業	7.58%
6	卸売業	6.50%
7	小売業	6.40%
8	医薬品	6.23%
9	その他業種	32.58%
10	現金等	2.70%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	マザーファンド
1	東京証券取引所第一部	94.82%
2	その他の市場	1.14%
3	ジャスダック証券取引所	0.97%
4	東京証券取引所第二部	0.36%
5	名古屋証券取引所第一部	0.01%
6	名古屋証券取引所第二部	0.00%
7	現金等	2.70%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.32%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.50%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.85%
4	日本電信電話	情報・通信業	2.40%
5	アステラス製薬	医薬品	2.17%
6	KDDI	情報・通信業	2.14%
7	キヤノン	電気機器	2.12%
8	日産自動車	輸送用機器	1.84%
9	三菱電機	電気機器	1.82%
10	東海旅客鉄道	陸運業	1.70%
合計			24.86%
組入銘柄数			142銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比＋5．55%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前四半期末比＋5．05%となりました。当四半期の日本株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた通信が下落したことや、少なめに保有していた自動車が上昇したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた富士重工業（7270）やセイコーエプソン（6724）が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していたイオン（8267）やオリックス（8591）が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

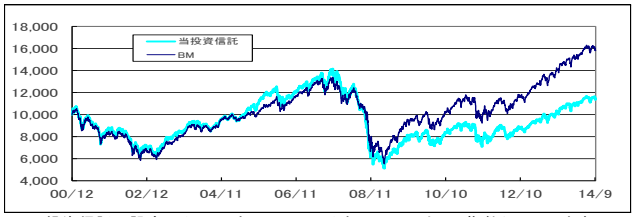
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート （2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界株式　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲1.32%	▲1.55%	3.55%	11.01%	52.22%	13.66%
BM	▲2.22%	▲1.72%	3.82%	12.11%	62.59%	57.98%
差	0.90%	0.17%	▲0.27%	▲1.11%	▲10.37%	▲44.32%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス*6
　（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国／地域別構成比率

	国名	マザーファンド
1	アメリカ	55.14%
2	イギリス	9.31%
3	日本	7.97%
4	ドイツ	5.02%
5	フランス	5.00%
6	スイス	4.29%
7	カナダ	3.28%
8	オーストラリア	2.13%
9	その他の国／地域	7.03%
10	現金等	0.84%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	金融	19.67%
2	ヘルスケア	14.20%
3	一般消費財・サービス	13.04%
4	資本財・サービス	12.96%
5	情報技術	11.95%
6	エネルギー	9.99%
7	生活必需品	8.40%
8	素材	3.66%
9	その他のセクター	5.30%
10	現金等	0.84%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1	アップル	アメリカ	情報技術	コンピュータ	2.53%
2	ロシュ・ホールディング	スイス	ヘルスケア	医薬品	1.54%
3	東芝	日本	資本財・サービス	コングロマリット	1.40%
4	小松製作所	日本	資本財・サービス	機械	1.37%
5	エクソン・モービル	アメリカ	エネルギー	石油・ガス	1.32%
6	ウォルト・ディズニー	アメリカ	一般消費財・サービス	メディア	1.29%
7	ウェルズ・ファーゴ	アメリカ	金融	商業銀行	1.25%
8	シーメンス	ドイツ	資本財・サービス	コングロマリット	1.20%
9	サフラン	フランス	資本財・サービス	航空宇宙・防衛	1.19%
10	マイクロソフト	アメリカ	情報技術	ソフトウェア	1.17%
合計					14.25%
組入銘柄数					235銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比▲1．55%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス（税引後配当金込／円ベース）の騰落率は前四半期末比▲1．72%となりました。

ベンチマークとの比較では、資本財サービス・セクターにおける銘柄選択やヘルスケア・セクターをオーバーウェイトとしたことはプラス要因となったものの、一般消費財・サービス・セクターや素材セクターにおける銘柄選択はマイナス要因となりました。

委託会社では、中期的には世界経済について慎重ながらも楽観的な見方を維持しています。また、企業の収益成長は今後加速すると予想しています。世界の景気回復はまちまちの状況が続いており、なかでも欧州経済は主要な懸念材料となっています。しかし、欧州中央銀行（ECB）が景気対策として追加の金融緩和策に前向きであることは、株式市場にとっての支援材料となっています。委託会社では、企業の増益傾向やバリュエーション水準に基づき、引き続き欧州株式市場には投資機会が存在していると考えています。

現在、企業が長期にわたり一定の利益成長を維持することは容易な環境ではありませんが、強力な競争優位性と高い資本利益率を持つ企業はそれを実現する可能性が高いと考えます。今後も利益成長が期待される企業の中から、株価水準が魅力的な優良銘柄を厳選する方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

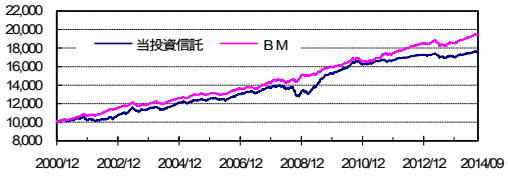
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート（2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界債券　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の純資産価格の推移



※　2000年12月21日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アライアンス・バーンスタイン―グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
【運用方針】

主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70%以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。

※　当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲0.50%	0.64%	1.87%	2.98%	6.21%	131.37%
BM	▲0.29%	1.14%	3.17%	5.50%	12.10%	160.59%
差	▲0.21%	▲0.49%	▲1.30%	▲2.52%	▲5.90%	▲29.22%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（1996年11月20日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、バークレイズ・グローバル総合インデックス[*7]です。

■当投資信託の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○ 国別構成比率

	国名	投資信託
1	アメリカ	26.32%
2	イギリス	18.87%
3	ドイツ	6.09%
4	フランス	5.73%
5	イタリア	5.43%
6	オランダ	3.65%
7	ニュージーランド	3.31%
8	国際機関	3.21%
9	その他	17.92%
10	現金等	9.47%
合計		100.00%

○ 格付別構成比率

格付	投資信託
AAA	49.39%
AA	15.07%
A	19.95%
BBB	15.27%
BB	0.32%
合計	100.00%

注）現金等はAAAに含まれます。
格付基準：
※ ムーディーズ社または
スタンダード＆プアーズ（S&P）社のうち、
いずれか高いほうを採用しています。

○ 債券種別資産構成比率

	債券種別	投資信託
1	国債	34.86%
2	投資適格社債	29.19%
3	カバードボンド	9.23%
4	インフレ連動債	6.49%
5	政府関連債	4.56%
6	国際機関債	3.20%
7	地方債（地方自治体）	1.12%
8	地方債（州政府）	1.05%
9	その他*	0.83%
10	現金等	9.47%
合計		100.00%

＊　国債先物取引等を含む場合がございます。

○ 組入上位10債券種類

	銘柄	国名	格付 ムーディーズ	格付 S&P	投資信託
1	アメリカ国債(5/15/17-8/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	5.49%
2	アメリカインフレ連動債(4/15/19)	アメリカ	Aaa	AA+	4.10%
3	イギリス国債(8/25/17)	イギリス	Aa1	AAA	3.90%
4	アメリカ国債(8/15/17)	アメリカ	Aaa	AA+	3.49%
5	ニュージーランド国債(12/15/17)	ニュージーランド	Aaa	AA+	2.68%
6	イタリア国債(8/1/17)	イタリア	Baa2	BBB	2.64%
7	アメリカ国債(11/15/16)	アメリカ	Aaa	AA+	2.44%
8	イギリスインフレ連動債(7/26/16)	イギリス	Aa1	AAA	1.91%
9	スペイン国債(7/30/17)	スペイン	Baa2	BBB	1.85%
10	フランス国債(10/25/19)	フランス	Aa1	AA	1.55%
合計					30.05%

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ 通貨別構成比率

	債券種別	投資信託
1	アメリカドル	98.17%
2	その他	1.83%
合計		100.00%

○ ポートフォリオの状況

	投資信託
平均デュレーション	5.16

※「平均デュレーション」とは、当ファンドの組入銘柄のデュレーションを平均したものです。
債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、
金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

当投資信託の騰落率は前四半期末比＋0．64%、一方、ベンチマークであるバークレイズ・グローバル総合インデックスは前四半期末比＋1．14%となりました。
当四半期、当投資信託の純資産価格は堅調に推移しました。ベンチマークに対しては、ユーロ圏およびイギリスの年限配分を主因に劣後しました。インフレ連動債への配分などにより、セクター配分もマイナス寄与となりました。米ドルが他通貨に対して上昇したため、米ドル以外の通貨への配分により、通貨配分も若干のマイナス寄与となりました。一方、イギリスおよび米国の投資適格社債における銘柄選択が奏功し、銘柄選択はプラス寄与となりました。
当投資信託では、投資適格債を中心とする慎重なポジションを維持します。ベンチマーク対比で投資適格社債に対する配分を最も多めとし、カバードボンド、政府関連債、地方債、商業用不動産担保証券を若干多めの配分とします。インフレ圧力の高まりに対応するために、イギリス、米国、メキシコのインフレ連動債を組み入れています。魅力の乏しい日本や米国への配分を少なめとする一方、イギリス、ニュージーランドへの配分を多めとします。当投資信託は、先物や金利スワップ等を使用して全体の金利の変動に対する価格感応度をベンチマーク並みとなるよう調整していますが、現在はベンチマークよりやや小さめとしています。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

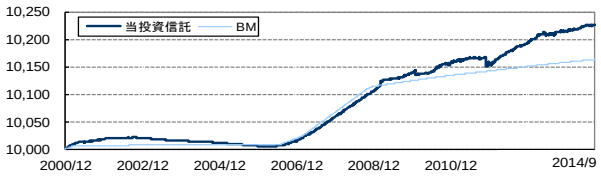
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の四半期運用レポート（2014年7月～2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　マネープール　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.01%	0.01%	0.08%	0.12%	0.60%	2.25%
BM	0.01%	0.02%	0.03%	0.07%	0.23%	1.63%
差	0.00%	▲0.01%	0.04%	0.05%	0.37%	0.62%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート[*5]により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　資産構成

	修正デュレーション	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
公社債	1.20年	59.46%
国債	2.16年	20.89%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	0.00年	0.00%
金融債	0.00年	0.00%
社債等	0.68年	38.57%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等	0.46年	40.54%
CD		0.00%
CP		0.00%
T-Bill		39.52%
コールローン		1.02%
その他		0.00%
合計	0.90年	100.00%

※「T-Bill」には、残存期間が1年未満の国債を含みます。
※「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○　公社債の格付別構成比率

格付区分	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
AAA	0.00%
AA	78.31%
A	17.37%
BBB	4.32%
BB以下（無格付含）	0.00%
合計	100.00%

○　短期資産等の格付別構成比率

格付区分	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
P-1	0.00%
P-2	0.00%
P-3	0.00%
無格付	0.00%
合計	0.00%

格付基準：※　海外格付機関の格付を優先します。
※　コールローンは格付別構成比率には含めていません。
（公社債の格付別構成比率と短期資産等の格付別構成比率の合計が100%になります。）
※　海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。
※　T-Bill等国債同等の無格付短期資産においては短期格付をP-1格とします。
※　T-Billに分類された1年未満の国債については「○公社債の格付別構成比率」に含めています。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比＋0．01%、一方、ベンチマークである日本円無担保コールオーバーナイト物レートは前四半期末比＋0．02%となりました。
ECBによる追加緩和策の発表などによる海外債券高の流れを受けて、利回りが低下する場面もありましたが、経済指標が景気回復を示したことや多くの国内企業が決算発表で見通しを上方修正したこと、円安によって国内株式市場が好調だったため当期末の2年国債利回りは前四半期末比0．004%上昇の0．077%となりました。
委託会社は、景気の回復や国内の年金基金による国内債券市場を上回るリターンを求める機運の高まり等を背景に、日本国債の利回りには上昇圧力がかかる可能性があると予想しています。今後の運用方針として、年限の短い国債への投資で流動性を確保しつつ、質の高い社債へ投資して、安定した運用と利回りの向上をめざす方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S＆P500種株価指数」とは、スタンダード＆プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード＆プアーズ社に帰属しています。S＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S＆P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（ユーロベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス（総合）」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

＊5「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。
このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。

＊6「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc. が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）は、MSCIワールド・インデックス（米ドルベース）をもとに、為替ヘッジにかかる費用相当分を考慮して委託会社が円ヘッジベースに換算したものです。

＊7「バークレイズ・グローバル総合インデックス」は、バークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社（バークレイズ）が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズに帰属します。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額個人年金保険です。
特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、
株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。
特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

＜年金支払開始日前＞

●特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用（増額費用）	特別勘定繰入前	保険料の**2．0%**	保険料から契約初期費用として2．0%が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。（増額費用も同じ）
保険契約管理費（積立金比例額）	毎日	特別勘定の積立金総額に対して **年率1．2%***	当社の経費に充当されます。（基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。）

*　毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1．2%の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費（件数比例額）	月単位の契約応当日	毎月　**100円**	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目**1,500円** 2回目以降は1回につき**2,300円** (*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は**無料** 2回目からは1回につき**800円** (*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日および貸付金の返済時	貸付金額の年利**1．2%**	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除	解約時	積立金額の **8．0%～0．8%**	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の **8．0%～0．8%**	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

※　貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

※　将来、上記の内容が変更になることがあります。

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 年率0．972%程度(税抜0．900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 年率1．080%程度(税抜1．000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 年率1．188%程度(税抜1．100%程度)	
		日本株式 年率0．864%程度(税抜0．800%程度)	
		世界株式 年率0．918%程度(税抜0．850%程度)	
		世界債券 年率0．460%程度 *1	
		マネープール 年率0．035100%～年率0．496800%程度 (税抜0．0325%～0．4600%程度) *2	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。
信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。
また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。
これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。□
管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。
その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがありますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

＜年金支払開始日以後＞

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1．0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。